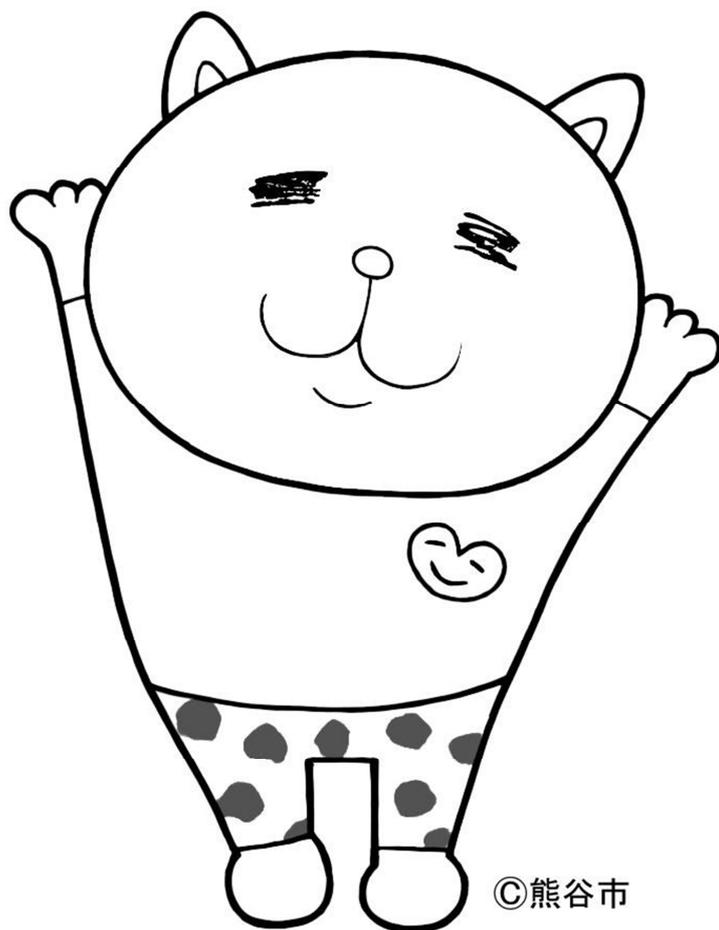


平成30年度実施

市民協働「熊谷の力」事業

「はじめの一步助成金」事業

合同成果報告会



©熊谷市

熊谷市市民活動推進課

次 第

日 時：令和元年7月4日（木）

午後1時30分から

会 場：大里コミュニティセンター

大集会室

1 開 会

2 あいさつ

3 報告発表 13:35～15:00（予定）

市民協働「熊谷の力」事業

報告 発表順	区分	事業名	報告者		発表 予定時刻
			市民活動団体	所管課	
①	市提案	地区防災計画策定事業	奈良地区防災計画 検討委員会	危機管理課	13:35～ 13:45
②		心のバリアフリー講師派遣事業	特定非営利活動法人 自立生活センター 遊TOPYア	障害福祉課	13:45～ 13:55
③	市民 提案	英語キッズガイド事業	NPO 法人 AEA 英語通訳 キッズプロジェクト	スポーツ観光課	13:55～ 14:05

（10分休憩）

「はじめての一步助成金」事業

報告 発表順	区 分	事業名	報告者(市民活動団体)	発表 予定時刻
①	チャレン ジ助成金	チュニジア大使館交流	特定非営利活動法人 ウイホープL・D・S	14:15～ 14:25
②		子ども「うちわ祭文化」体験教室	熊谷山車屋台研究会	14:25～ 14:35

報告 発表順	区 分	事業名	報告者(市民活動団体)	発表 予定時刻
①	スタート	朗読旅ごころ	「朗読」大好きファンクラブ	14:35～ 14:45
②	助成金	ワールドフード熊谷2018	ワールドフード熊谷	14:45～ 14:55

4 講 評

5 閉 会

事業名	地区防災計画策定事業	
実施団体等	実施団体：奈良地区防災計画検討委員会	所管課：危機管理課

1 事業目的	地区防災計画を作成し、地域防災力を高めて、地域コミュニティを維持・活性化すること。	
2 事業概要	地域防災力の向上とコミュニティ強化を目的に、地区内の24団体で検討委員会を組織、協働して①防災マップ、②黄色のタオルを使った安否確認、③小中学生を含む合同防災訓練の実施を通して、奈良地区防災計画を策定、自治会を通じて全戸配布した。	
3 事業期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日	
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業	
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業（補助率 80%）	
6 事業費	総事業費： 500,006 円(A+B+C)	事業収入： 0 円(A)
	実施団体の負担額： 100,006 円(B)	市の負担額： 400,000 円(C)
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果</p> <p>①防災マップの作製 地域の特性を把握し、災害時に注意する箇所等を調査し、防災マップを作成した。</p> <p>②黄色のタオルを使った安否確認 地区内の全世帯に黄色いタオルを配布し、訓練時に家族が無事であれば外部から確認できる位置に掲げることとした。</p> <p>③小中学生を含む合同防災訓練 避難者役として小・中学生も参加。避難誘導や避難所開設、情報収集、救護、資機材使用等の各訓練を行った。</p> <p>●達成度</p> <p>①防災マップの作製 6～7月に30班（1班7人）に分かれて、地区内を実際に歩きながら、避難できる場所や災害時に役立つ施設、危険箇所などの現地確認を行った。完成した地図はカラーで、奈良地区を4エリアに分け、3階以上の建物やコンビニ、ブロック塀、過去の災害発生場所、見通しの悪い場所等、30か所を色分けして地図上に落とし、非常に見やすく、わかりやすい防災マップが完成した。</p> <p>②黄色のタオルを使った安否確認 8月25日に開催した市の総合防災訓練に合わせ、奈良地区の約1800世帯を対象に安否確認訓練を行った。事前に配付した黄色のタオルを訓練開始時に玄関等、外から確認できる場所に掛けてもらい、それを地区役員が調査し、結果を小学校に設置した地区災害対策本部に報告した。さらに地区本部から市の総合防災訓練会場に設置した災害対策本部にアマチュア無線を使用し報告する訓練も行った。黄色のタオルの表示率は83%と高い数字であり、地区内の防災意識の高さを認識できた。</p> <p>③小中学生を含む合同防災訓練 11月9日 13時から奈良小学校で参加者約350人が奈良地区合同防災訓練を行った。開会式前に避難誘導訓練を兼ねて集合し、その後避難所開設訓練や救護訓練を行った。また段ボールベッドや仮設トイレの組み立て等、資機材の使用の確認や煙体験ハウスの体験も行った。特に学校に協力をお願いして、小中学生も訓練に参加してもらったが、どの訓練にも積極的に手際よく、真剣に取り組んでいた。</p> <p>●波及効果 平成31年2月20日に奈良地区防災計画検討委員会から市長に「奈良地区防災計画」の提案があり、それを受け、2月22日に市の防災会議で審議され、熊谷市地域防災計画に地区防災計画編として位置づけられました。また自主防災組織リーダー研修会で紹介したことにより、いくつかの自主防災組織が地区計画策定に関心を示しています。</p>	

<p>8 協働の効果</p>	<p>●実施団体から見た協働の効果</p> <p>防災マップ作成調査や安否確認訓練、合同防災訓練及び地区防災計画づくりを通じて地域コミュニティの強化が図られ、地域防災力が向上した。</p> <hr/> <p>●所管課から見た協働の効果</p> <p>地区防災計画策定に際し、検討委員会を5回、事務打合せ会は30回も行い、熱心さが感じられ、奈良地区は地区住民の結びつきが非常に強いと感じられた。作成した防災マップは、市では見えてこない、地区ならではの課題や情報を取り入れて、大変にきめ細やかなつくりとなっている。</p>
<p>9 今後の展開と課題</p>	<p>●実施団体から見た今後の展開と課題</p> <p>地区防災計画は完成したが、今後も見直しや修正等が発生するため、検討委員会は存続していく。更なる活動を通じて他の地区へも「地域防災計画策定」の動きが波及するよう防災活動を今まで以上に推進していきたい。</p> <hr/> <p>●所管課から見た今後の展開と課題</p> <p>本市で初めての地区防災計画が完成したことを受け、他の地区においても地区防災計画策定を支援する。そのために平成31年度から新規に補助事業を行うこととし、補助額は補助率5分の4で上限額は校区単位は40万円、単独自主防災組織は5万円とした。策定においては複数の防災士の力と地区役員の力を集約する必要があるため、他の地区がエントリーできるかが課題である。</p>

事業名	市民協働 「熊谷の力」 心のバリアフリー講師派遣事業	
実施団体等	実施団体：特定非営利活動法人自立生活センター遊トピア	所管課：障害福祉課
1 事業目的	市内の小・中学校へ心のバリアフリー促進のため、障害当事者等を講師として派遣する。	
2 事業概要	<p>学校での福祉教育は、情報やノウハウの蓄積不足、学校のバリアの状況などから障害当事者ではなく、担任の教諭や障害のない者が実施しているケースが多い。また、車いすや高齢者の疑似体験にとどまり、当事者との接点を持たないまま終わる場合が多い。</p> <p>上記の現状・課題に対し、「障害当事者と直接接する（触れ合う）」事で、特別な存在ではなく、自分たちと変わらない対等な【人】だということに気づき、正しい障害の理解を促進することを目指す。</p> <p>また、そうした機会を効果的なものとするため、対話や体験・ゲームなどを取り入れたカリキュラムを障害当事者中心に検討、作成する。さらに、講師は統一した授業の実施ができるよう育成も行う。</p>	
3 事業期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日	
4 事業区分	市提案事業 ・ 市民提案事業	
5 事業形態	委託事業 ・ 補助事業（補助率 %）	
6 事業費	総事業費： 881,246円(A+B+C)	事業収入： 0円(A)
	実施団体の負担額： 0円(B)	市の負担額：881,246円(C)
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 講師育成 障害当事者やその家族に対して、講師の募集をしたところ10名が応募。作文及び面接による選考で5名を選出。研修を通じて講師を育成。 障害当事者へのアンケート及び教材作成 障害当事者に対して、普段の生活の様子や考え方を中心にアンケートを実施。アンケート結果を参考に、小中学生向けに障害当事者の目線から教材を作成した。障害の種類毎に普段の生活、工夫していることを紹介。 障害当事者等による学校への講師派遣 市内の小学校等に、講師を派遣し、1人あたり2回（全10回）講義を行った。（内訳：小学校8校（14クラス416名）、高校1校（1クラス20名）、県市職員1回（50名））。 <p>●達成度</p> <ol style="list-style-type: none"> 講師育成 障害当事者の中には伝えたいメッセージがあっても、人前で話した経験が少ない場合がある。本事業では話し方研修に参加、講師同士で講義について振り返りや練習会を行い、講師として子供たちの前で講義を行う準備をした。 障害当事者へのアンケート及び教材作成 教材にアンケート結果を盛り込むことで、様々な種類の障害者の声を取り入れることが出来た。「みんなちがって、みんないい」を主題に、障害者は特別な存在ではなく、障害があっても自分たちと変わらない対等な存在であることがわかる内容となっている。単に配慮してほしいことを書き並べるのではなく、 	

	<p>各障害毎に普段の生活や工夫していることを紹介し、障害者の気持ちに寄り添った内容となっている点が特長である。</p> <p>3 学校への講師派遣</p> <p>講師は聞き手である子供たちの関心を引く話題を話したり、「障害のあるお友達と一緒にブランコや風船バレーをするにはどうしたらいいか」などのテーマで子供たちと一緒に話し合う時間を設けるなど、障害者をより身近に感じられるよう工夫をした。実際に話し合いで出されたルールで風船バレーを行ったり、子供たちへ身近な話題を振ったり、問いかけや質問の時間を長く設けたりと、障害当事者と直接触れあう時間を確保した。講義後の休み時間には、講師にかけ寄り会話や挨拶をしたり、一緒にサッカーをしたりする様子も見られ、障害者を自分たちと対等な【人】として認識し、接している様子がうかがえた。</p> <p>●波及効果</p> <p>講義では講師に関する障害の経験を生の声で伝え、他の障害については教材を読むことで幅広い障害内容について理解することが出来る。また、教材は自宅に持ち帰り、家族と一緒に話し合うきっかけになることも期待でき、子供たちだけでなく大人を含む社会全体の理解促進に繋がる。</p> <p>講師は「みんなちがって、みんないい」という共通のメッセージを軸に、個々の体験談で肉付けし、講義後は講師同士で振り返る機会を設けることで、統一した講義となった。</p> <p>大規模校では、授業時間の確保や車いすなどの機材調達の都合で体験授業を行うことが難しい場合があるが、障害当事者の講義であればこのような場合の解決策としても期待できる。</p> <p>障害者への理解を目的とした取組であったが、講師である障害当事者の社会参加の促進にも繋がった。</p>
<p>8 協働の効果</p>	<p>●実施団体から見た協働の効果</p> <p>一番の特徴である、障害当事者とその家族が、実体験に基づいた生の声を伝えることで、「自分の身近に障害のある人がいる」ということ、そしてどんな生活をして、どんなことに困り、自分たちには何ができるのかを知り考える第一歩となった。また学んだことを友達や先生、家族と共有することにより、より一層理解の輪が広がることを期待できる。</p> <p>今回は講義だけでなく、講師と共に考え、活動し、そして対話をし、休み時間に会話をするという時間を多く設けたことにより、子どもたちと積極的な関わりができ、「自分たちと変わらない生活をしていること。そして対等な人なのだ」ということに加え、障害の有無に関わらず、「みんなちがってみんないい」を伝えることができ、障害のある人への関心と理解の促進ができた。</p> <p>●所管課から見た協働の効果</p> <p>体験授業と障害当事者等の講義を併せて実施することで、疑似体験に留まらず障害者の大変さや触れ合い方をより深く理解できた様子であった。</p> <p>これまで「心のバリアフリー教室」では、多くの学校が障害者や高齢者の疑似体験のみを実施してきたが、体験と講義を組み合わせることで、子供たちの理解を深めることが期待できる。</p>
<p>9 今後の展開と課題</p>	<p>●実施団体から見た今後の展開と課題</p> <p>平成 30 年度に実施することのできなかつた学校や、平成 30 年度に実施させていただいた学校に対し、研修や講演で学んだ経験を活かし、積極的に講演会活動を行っていく。</p> <p>障害のある人とはじめて出会うこと、そして継続的に関わり合うことにより、より身近な存在に感じることが出来るであろう。</p> <p>『共感できる伝え方』ができるように、スキルアップを行い、より自然な形で「身近な対等な人であり、みんなちがってみんないい」ということが伝わる講演会の開催を目指す。</p>

●所管課から見た今後の展開と課題

平成 30 年度は体験授業を希望する学校に、講義の同時実施を積極的に案内した。今後も継続した取組となるよう、講師には引き続き障害者に対する理解が深まる講義を目指してもらいたい。

登録講師は現在 5 名である。経験を積んだ講師の指導のもと、新しい講師を登録、育成し、熊谷市の子供たちが様々な種類の障害についての講義を受けられる仕組みを構築してほしい。

事業名	市民協働「熊谷の力」英語キッズガイド事業																		
実施団体等	実施団体:NPO法人 AEA 英語通訳キッズプロジェクト	所管課:スポーツ観光課																	
1 事業目的	スポーツと観光の融合するラグビータウン熊谷で熊谷の子供たちが英語で郷土愛を育む心の育成																		
2 事業概要	<p>1:外国人観光客受け入れ体制の整備 2019年に控えたラグビーワールドカップ開催に向け、外国人の受け入れ体制を整えることが急務となっている中、1年前より外国人観光客に親子で英語ガイドを養成する活動を行う。</p> <p>2:郷土愛の育成 外国人とのコミュニケーションを通して多様な価値観の醸成を促し、多様化する社会の変化に対応する子供たちを育成していくと同時に、熊谷への郷土愛を育てていく。</p> <p>3:ラグビータウン熊谷のPR うちわ祭、ラグビー観戦、うどんサミットにお越しになる外国人観光客に英語でおもてなしボランティアを行い、ホスタウンとしての熊谷市をPRしていく。</p>																		
3 事業期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日																		
4 事業区分	市提案事業・ 市民提案事業																		
5 事業形態	委託事業・ 補助事業 (補助率66.6%)																		
6 事業費	総事業費: 900,000円(A+B+C)	事業収入: 150,000円(A)																	
	実施団体の負担額: 150,000円(B)	市の負担額:600,000円(C)																	
7 事業成果と波及効果	<p>●受益対象への具体的な成果</p> <p>1:外国人観光客受け入れ体制 英語キッズ(親子)ガイドの体制やノウハウを構築することができ、ラグビーワールドカップまでには、外国人観光客の受け入れができる体制になった。外国人観光客に親子で英語ガイドを養成する活動を通年(4月～3月第3日曜日)通して商工会議所、市民活動センター、コミュニティセンター、くまびあにて実施した。</p> <p>2:郷土愛の育成 地元を外国人に英語で案内することを通して、自然とそこに根付いている歴史、文化背景などに興味を持ち、深く学ぶことができた。また、外国人へのおもてなしを通して相手を思いやるおもてなしの精神を育んだ。</p> <p>3:ラグビータウン熊谷のPR うちわ祭、ラグビー観戦、うどんサミットにお越しになる外国人観光客に英語でおもてなしボランティアを行い、ホスタウンとしての熊谷市をPRした。 アンケート調査の結果によると、満足度が高かったのは、キッズガイドと一緒にできる体験活動＝コト体験であった(書道体験、着付け体験、お祭り体験、うどん手打ち体験)外国人観光客へ喜ばれる体験活動とキッズ家族ガイドの存在は大きいと言える。</p> <p>●達成度</p> <p>1:外国人観光客受け入れ体制 英語キッズガイドとその家族で外国人観光客の受け入れができる体制に整った。</p> <p>【おもてなし英語ガイド実施状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日程</th> <th>イベント</th> <th>キッズガイド+保護者数</th> <th>外国人観光客数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7/21.22</td> <td>熊谷うちわ祭</td> <td>116</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>9/23</td> <td>RWC2019 一年前イベント</td> <td>86</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>11/11</td> <td>全国ご当地うどんサミット</td> <td>105</td> <td>42</td> </tr> </tbody> </table> <p>2019年の外国人観光客へおもてなし英語ガイド実施人数合計 182人</p>			日程	イベント	キッズガイド+保護者数	外国人観光客数	7/21.22	熊谷うちわ祭	116	128	9/23	RWC2019 一年前イベント	86	12	11/11	全国ご当地うどんサミット	105	42
日程	イベント	キッズガイド+保護者数	外国人観光客数																
7/21.22	熊谷うちわ祭	116	128																
9/23	RWC2019 一年前イベント	86	12																
11/11	全国ご当地うどんサミット	105	42																

	<p>2:郷土愛の育成 運営スタッフも、子供たちやその家族まで、地元を深く知る機会をあたえられたことで、熊谷に対する郷土愛がより湧いた。熊谷に対する意識や関心が高まった。</p> <p>・保護者からのアンケートより 「AEAを通じて、世界を身近に感じる事が出来ました。世界は広いけど、手が届かないわけではないと思えました。外国人とコミュニケーションを取りたいと思えば思うほど、地元をもっと知り、理解することが必要だと感じました。親子でとても楽しい時間を過ごさせていただき感謝しております。子供たちが、この先たくさんの人と出会って、ボランティアを通して自身の成長につなげていけたら嬉しく思います。また、参加出来る日を楽しみにしたいと思います。」</p> <p>3:ラグビータウン熊谷のPR うちわ祭、ラグビー1年前イベント、うどんサミットにお越しになる外国人観光客に英語でおもてなしボランティアを行い、ホストタウンとしての熊谷市のPRを実施した。</p> <p>・外国人参加者からのアンケートより “It was amazing OMOTENASHI experience from AEA kids & their family. Rugby is not so popular in my culture , so it was fun to play tug rugby with kids. Kids are very kind to teach how to play the game. Awesome!!! Thank you soooooo much. I love KUMAGAYA.” (訳)「子供たちとその家族でのおもてなしに感動しました。私の国ではラグビーはあまり知られてないけど、子供たちがルールも教えてくれて、しかも一緒にラグビーをして面白かった。とにかく素晴らしい！！この時間を本当にどうもありがとう。熊谷が大好きになりました。」</p> <p>●波及効果 ・全国の英語おもてなしガイド体制を構築しようとしている自治体や教育企業からの視察の受け入れ。 ・「観光×教育」を組み合わせた新しい教育メソッドとして、NHK、埼玉新聞、日本経済新聞等からの取材を受けた。 ・英語の語学力が向上するのはもちろんのこと、予測型学習、コミュニケーション能力、問題解決力などのこれからの多様化する社会で生き抜く人間力を養える場となっている。 ・関連事業として、埼玉県ラグビーワールドカップ大会課、埼玉県北部地域振興センター、対戦6か国大使館と連携し、2019年3月17日に「ラグビーワールドカッププレイイベント」を主催した。本市小学生を対象にした対戦6か国交流を企画し、AEAの子供たちがブース運営した。</p>
8 協働の効果	<p>●実施団体から見た協働の効果 ・市民協働事業として活動を実施できたことで、18歳以下の英語ボランティアガイドとして活躍できる場を市民に認知していただけたことは非常に大きいと言える。</p> <p>●所管課から見た協働の効果 ・外国人観光客対応の出来る観光ガイドは貴重な存在であり、本事業を通してその人材の確保ができた。単に「通訳」としてのガイドではなく、観光の知識を頭に入れたうえで、自分の言葉でガイドできる人材は多くないため、その人材が確保できたことは、本市の観光振興事業の大きな一歩と言える。 ・今回協働事業を通じ、ガイドの体制やノウハウの構築が完成したことにより、今後はより多くの外国人観光客を受け入れることができる。 ・波及効果としては、本事業が多数メディアに取り上げられたことで、本市の観光PRに繋がった。</p>
9 今後の展開と課題	<p>●実施団体から見た今後の展開と課題 【展開】 ・引き続き18歳以下の英語ガイドキッズとその家族の育成を継続していく。 ・熊谷市教育委員会でラウンド式の英語教育を行っている成果を検証できる場としても、子供たちの活躍の場が期待できる。 ・市民協働事業として、一人でも多くの子供及び市民へ活かされる活動として、地元へ根付いていきたい。 ・この活動を、長期的に継続・発展させていきたい。 ・熊谷への地元愛を極め、グローバルに活躍するリーダーや後継者の育成をしていきたい。</p> <p>【課題】 ・活動を継続、拡大していくための「後継者育成」、「財源確保」、「参加者増のための広報PRの方法」「今後のビジネスモデルの構築」「RWC後の活動」等があげられる。</p> <p>●所管課から見た今後の展開と課題 ・引き続き多くの外国人観光客の受け入れるため、本事業の継続をお願いしたい。 ・継続的に事業を行うため、金銭面を含めたビジネスモデルの構築が今後の課題であるとする。</p>

(別紙様式1)

団体名	特定非営利活動法人ウイホープL・D・S
-----	---------------------

事業実績報告書(30年度)

1 助成金名	「スタート助成金」	「チャレンジ助成金」
2 事業名称	チュニジア大使館交流	
3 交付決定助成金額	300,000円	
4 助成事業に要した経費の額	431,767円	
5 助成金要望額	300,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	交流終了時には、外国人との交流を感じさせないぐらい親しくなり、素晴らしい交流だった。
	(2) 助成事業の成果の現われ度	子供たち(両国)から来年も会いたいという声が多かった。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	後日、子供たちのなかにはメールのやりとりをしたり、ホームステイをしたいという話もしている。
7 成果の自己評価	大成功。	

(別紙様式1)

団体名	熊谷山車屋台研究会
-----	-----------

事業実績報告書 (平成30年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称	子ども「うちわ祭文化」体験教室
3 交付決定助成金額	100,000円
4 助成事業に要した経費の額	58,950円
5 助成金要望額	44,000円
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度 台風の影響もあり、参加者は多くありませんでしたが、子どもたちに熊谷市の伝統文化を伝えることができました。時間がなく、成果印刷物が完成できなかったのが残念です。
	(2) 助成事業の成果の現われ度 メインとなる山車模型制作講座は、自作と違って子どもに教えることの難しさを感じるとともに、初めてのことに触れたときの感動に立ち会う喜びがありました。また、インターネットの熊谷経済新聞での紹介もあって他地域の祭りファンから賛同の声も多くあがっています。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容 8月に山車模型制作講座2回(会場は富士見中学校とさかえ寿司)
7 成果の自己評価	目的がある程度達成されたこと、今後への課題もわかったことで75点とします。

(別紙様式1)

団体名	「朗読」大好きファンクラブ
-----	---------------

事業実績報告書 (平成30年度)

1 助成金名	「スタート助成金」	「チャレンジ助成金」
2 事業名称	朗読旅ごころ	
3 交付決定助成金額	7,000円	
4 助成事業に要した経費の額	11,847円	
5 助成金要望額	7,000円	
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度	熊谷市民の他に隣接する地域から来場者があり、朗読の関心が広がっているのが確信できた。そのため、100%とする。
	(2) 助成事業の成果の現われ度	予想以上のお客様が訪れて、終了後に褒め言葉があったり、次回開催はあるのかと質問を受けた。100%と感じた。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容	熊谷市及び近隣の人々に朗読の面白さを伝えたい。
7 成果の自己評価	満足である。開催終了後に次期も参加したいとの思いを多くの人から受け取った。	

(別紙様式1)

団体名	ワールドフード熊谷
-----	-----------

事業実績報告書 (平成30年度)

1 助成金名	「スタート助成金」 「チャレンジ助成金」
2 事業名称	ワールドフード熊谷2018
3 交付決定助成金額	100,000円
4 助成事業に要した経費の額	59,614円
5 助成金要望額	44,000円
6 助成事業の成果	(1) 助成事業の目的達成度 計画は大きく遅れ、回数も予定を大きく下回る2日、3講座にとどまりました。計画通りに進まなかった理由は、会員の状況変化に伴い、打ち合わせなどが進まなかったことです。
	(2) 助成事業の成果の現われ度 数少ない開催の講座でしたが、参加者の満足度は高く、こういった料理教室が初めてだった講師も新たな事業アイデアを得られたようです。SNS、有線テレビでの情報拡散もあって、「世界の料理を熊谷で」という考え方は広げることができました。参加できた人、都合でできなかった人から、次年度以降の開催を望む声は多いです。
	(3) 助成事業の成果の具体的内容 「米粉アメリカンマフィンをつくってみよう」1日2回、「トムヤンクンをつくってみよう」1回1講座
7 成果の自己評価	目的はある程度達成されましたが、計画通りに進みませんでしたので60点とします。